

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	唐津市立長松小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究「3ラインの指導で学力向上を目指す授業設計」をもとに日々の授業改善の意識が高まっており、継続させたい。「生徒指導の3機能」を意識した授業づくりも必要である。 ・あいさつや言葉遣いの指導が不十分である。望ましい生活習慣の獲得に向けた児童の実践意欲も高まりが見られない。
2 学校教育目標	自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成 ～合い言葉：「自分で気づき、必ず実行！！みんなで伸びる長松小学校」～
3 本年度の重点目標	◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進 ①心身ともにたくましい子(保健部) ②当たり前のことができる子(生活部) ③みんなで伸びようと協力する子(特活部) ④自ら学び、考える子(学習部)

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・学力向上対策評価シートやアクションプランを使って、学力向上のPDCAサイクルを確立するとともに、校内研究を充実させ、授業改善を行う。	B	・学力対策シートでのマイプラン達成率は82%。 ・学力対策シートやアクションプランを全職員で記入し、成果と課題について検証し次年度につなげた。	B	・個々の能力や資質を見極めながら、今後も学習意欲の向上に努めてほしい。
	○自分の考えを伝え合い、深め合う[対話活動]や学習内容や学び方を振り返る「振り返り」の充実 ○理由や要点、筋道を立てて考えたこと等を文章で書いたり、説明したりする活動の充実	○独自アンケートで「友だちと対話しながら活動することは役立つ」や「振り返りで学習内容や学び方を振り返ることができている」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上 ○独自アンケートで「自分の考えを文章や図に表し、分かりやすく説明することができている」の項目に対して肯定的な回答をする児童の割合85%以上	・コミュニケーションスキルを意図的に価値付けることで有効な対話活動ができるようにする。また、学習内容と学び方を振り返らせることで、これらを活用できるようにする。 ・必要感のある対話活動を設定し、児童の書きたい説明したいという意欲を喚起する。表現の技能については、「分かりやすい説明の仕方」をもとに指導する。	A	・アンケートの結果、肯定的な回答をした児童は、対話活動に対しては91%、振り返りに対しては91%であった。 ・アンケートの結果、分かりやすく説明できると肯定的な回答をした児童は84%であり目標を達成していないが、伸びている。	A	・グループ学習等が制限される中、工夫された指導によりある程度の目標は達成されている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が85%以上	・道徳教育の充実。 ・年3回の人権教室の充実。 ・「さん」づけで呼び合わせる指導。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。	A	・「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」に対して、肯定的な回答をした児童が94%。 ・ふれあい道徳を行った学級は21学級であった。児童の人権意識も高まってきている。	A	・道徳教育の充実等で、思いやりの心が育ってきている。 ・スマホやゲーム、学校現場でのタブレット導入などデジタル化は今後益々進むので、時代の波にのまれない心を育ててほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校生活に関わるアンケートで、肯定的意見が90%以上 ○不登校児童の人数を10人以下になるよう目指す。	・毎月、児童へのアンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努める。 ・毎月の生徒指導協議会で、気になる児童については些細な事でも情報を発信し、学校全体で支援していく。	A	・全校の90%以上が、学校は楽しいという肯定的意見だった。アンケート結果等から、気になる子に対しては、全職員で迅速かつ適切な対応に努めた。	A	・いじめ防止標語の取組で、全児童が参加しているのが素晴らしい。 ・いじめ等の防止に取り組んでもらっている。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上	・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)82% ・新型コロナウイルス感染症の影響により地域の人々との交流体験活動は実施できなかったが、道徳科等でキャリア教育を行った。	A	・今年度は、地域との交流ができず残念であった。 ・地域の人材を活用し、自分たちの町の歴史に興味を持たせる工夫をしてほしい。	A
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「あ・ス・な・ろ・へ」の定着を図り、各月の生活目標の達成率85%以上を目指す。	・全校集会や学級指導など、教育活動のあらゆる機会を捉え、礼儀や規律の重んじる態度を育成する。 ・生活委員会を中心に、児童自身が自ら考え、進んで行動できるよう、「あいさつ運動の推進」、「無言掃除や安全な廊下歩行の呼び掛け」等、児童の自主的な活動を支援していく。	B	・生活目標の達成のため、生活委員会を積極的に機能させることができなかった。スリッパの整理整頓、廊下歩行についてはなかなか意識向上が図れなかったが、チャイムの合図等いくつかのきまりについては、80%以上の達成率に達していた。	A	・よくできている。 ・あいさつは、以前より良くなっているが、まだ少し不十分である。相手の目を見てあいさつをすればもっと気持ちが良い。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上を目指す。	・年2回の生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・日々の給食指導に加え、年4回の給食週間を設け、全職員で指導を徹底する。	A	・生活学習習慣100点運動や日々の給食、全校食育の授業などを通して、食生活の大切さを周知したことで、「健康に食事は大切である」と考える児童の割合が85%だった。	A	・感謝の気持ちについては指導できても、好き嫌いや朝食については、家庭への啓発、協力が必要である。 ・給食の残菜量が減ったようで、素晴らしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・時間外勤務時間調査を毎月20日に中メし、30時間超の職員へのヒアリング実施。	B	・全職員の時間外勤務時間の平均36時間 ・最終施錠時刻を早めたり、時間外勤務時間が多い職員への声かけを行ったりしたこと、昨年度より時間外勤務時間が全体的に減少した。	B	・先生方の業務は多岐にわたり、複雑化している。学習に力点を置き、地域・PTAとの連携強化が必要である。 ・勤務時間外の留守番電話機能の設定を検討されてはどうか。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○長松コミュニティの推進	○地域・保護者ボランティアの増加 ○児童による地域貢献	○昨年度ボランティア延べ人数533人を上回る。 ○地域の行事やボランティア活動に参加する児童を増やす。	・コミュニティスクール通信を地域の回覧で回したり、HPに掲載したりして周知させ、協力の輪を広げる。 ・地域行事やボランティア活動の呼びかけを積極的に行う。 ・校区のゴミ拾いを全校で定期的に行う。	B	・コミュニティスクール通信を毎月発行し、学校の様子を地域に周知した。 ・ボランティア活動の呼びかけは、新型コロナウイルス感染症の影響により、行わなかった。ボランティア人数102人。 ・毎月1回学年当番による朝のゴミ拾い活動を実施した。	A	・コロナ禍の中、できる取組を進めている。 ・全職員の意識を高めてほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・校内研究において、授業改善が進み、児童の主体的な学びが増えた。今後も、「対話活動」と「振り返り」を授業内に取り入れ、活用する力(見方・考え方、学び方)の育成を図る。 ・自問教育が軌道に乗った。掃除に限らず様々な場面で、玉みがきを意識させ、心の教育に努める。 ・保健指導と「生活習慣100点運動」、「ノーメディアデー」等の関連を図り、望ましい生活習慣の獲得に向けた児童の実践意欲を高める。
----------------	--